

令和6年度

第1回静岡市立清水看護専門学校関係者評価会議 議事録

日 時 : 令和6年10月10日(木) 15時30分～16時30分

場 所 : 静岡市立清水看護専門学校会議室

司 会 : 事務長 志田訓広 書記: 木下真理子 森 康太

出席者 委員長: 櫻井郁子 委員: 渡邊昌子 浅沼 勉

教 職 員

副校長 佐野繁子 事務長 志田訓広

看護学科 教 務 長: 和田 愛 教務主幹: 松本めぐみ

教務主幹補: 木下真理子 玉木恭子

看護教師: 今井弓珠 亀山美穂 西谷沙紀 井出見也子 森 康太

助産学科 教 務 長: 池村さおり 看護教師: 山本智美 深澤絵里

司会:(事務長)

教育課程編成会議に引き続き、令和6年度第1回清水看護専門学校、学校関係者評価会議を開催する。資料を確認する。校長は本日所要により欠席している。

< 校長代行挨拶 >

ようやく秋らしい季節になってきた。今年度当校は1年生30期生を迎え、節目の年でもある。今回中間の評価過程を報告するので、忌憚のない意見を頂戴したい。

司会:事務長

< 評価委員の自己紹介 >

櫻井郁子委員(公益社団法人静岡県看護協会常務理事)

渡邊昌子委員(静岡県訪問看護ステーション協議会会長)

浅沼 勉委員(清水看護専門学校後援会会長)

司会(事務長)

水谷美由紀(静岡市立清水病院看護部長)委員は、本日所要により欠席されている。

本日出席の本校の職員から自己紹介する。

司会(事務長): 学校関係者評価会議の目的・評価委員への期待・評価の進め方について副校長より説明する。

佐野副校長: 専修学校の学校評価制度には自己点検自己評価のほか自己評価結果を客観的に検証するシステムとして、「学校関係者評価」がある。

目的は、①自己評価の結果の客観性・透過性を高める。②専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校経営の改善を図ることである。

評価のポイントは、「自己評価結果の内容が適切か」、「自己評価結果を踏まえた今後の改善策が適切か」、「学校の重点目標や評価項目などが適切か」、「学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適

切か」である。

評価結果の公表・活用については、第2回会議での評価結果を頂き、ホームページで公表する。

自己評価と学校関係者評価の組織関係は、資料1図に示した通り。構成員は、学校教育法第 67 条で、「学校関係者は、当該学校の教職員を除くもの」となっているので、看護分野に関し知見を有する団体の役員として渡邊様、櫻井様、清水病院の職員として水谷様、そして、保護者を代表し、本校後援会会長の浅沼様をお願いした。この組織は、学校とは別の組織と位置付けられるので、後程委員長を、互選してください。評価の報告及び意見交換となりましたら、委員長に司会をお願いする。

今後の進め方は、令和 6 年度の間での自己点検自己評価結果を担当者から報告する。先ほどの視点で項目ごとにご意見を伺いたい。ご意見は、学校側で取りまとめていく。内容をご確認していただき、委員長からの報告とする。

年度末の評価結果は、年報及びホームページへの掲載で公表する。この時、評価委員のお名前も掲載する。

<委員長の選出>

司会(事務長):委員長は委員の中から選出することになっている。

委員の賛同のもと委員長に櫻井委員が選出された。司会を櫻井委員長をお願いする。

櫻井委員長:本日の委員長を務める。令和6年度自己点検・自己評価結果の中間報告をお願いしたい。

1 自己点検自己評価の中間報告(佐野副校長) 資料 2 参照

事前に配布した自己点検自己評価の中間結果について報告する。今年度も昨年度に引き続き、学校職員全員で自己点検・自己評価に取り組んできた。

昨年度の学校関係者評価会議の示唆を受け、今年度の自己点検・自己評価委員会の目標を挙げた。①学習しやすい環境の整備と活用②働きやすい環境の整備③本校の魅力(両学科あるよさの活用・清水病院との連携)の強化、以上 3 つである。

自己点検・自己評価の取り組みは、事前に配布した資料、表紙の裏面にある中間評価結果の表の 12 項目にそって、各職員が担当する業務から強化および評価チームを作り、担当職員を中心に職員全員で学校運営に取り組んできた。全職員で評価するにあたり、各チームで取り組み状況を職員会議で報告し、その報告を受けて、職員で評価点をつけた。その結果がこの表に載せている評価点となる。今年度力を入れた取り組みを中心に説明する。

学習しやすい環境の整備と活用について、昨年度より使用頻度の高い場所の空調修繕をすすめており、基礎看護及び在宅看護実習室の修繕を行った。猛暑が続く中で空調が整ったことは大きい。一方、感染予防の換気と節電の意識を高める必要がある。有料で使用するコピー機に加え、後援会の協力を得て学生が無料で使用できるカラープリンターを準備した。運用方法を決めて周知後、学生が利用している。そして、両学科の全学生がパソコンあるいは iPad の準備が整った今年度は、学生便覧や講義要綱をホームページに公開し紙は廃止した。また、学生からの要望が多い洋式トイレの変更は講義棟で 1 つ行い、図書室の一部を LED に変更した。今後は台風 10 号により破損した玄関エントランスホールの庇の修繕予定である。看護学科では、実習要綱・実習指導要綱をホーム

ページに公開し、学生・指導者と情報共有している。学習支援システムを利用し、講義資料の配信、一部授業では課題提出や返却を行っている。今年度は、学年を越えた縦割りグループをつくり、教え学び合う機会を設けた。技術修得につなぐだけでなく、モチベーションアップ、相談しやすい関係構築にもつながった。互いの状況を理解し調整する力が高まることも期待している。一方学年横の関係が希薄になりやすい傾向もあるようだ。また、ハイブリッドシミュレーターを5月に導入でき、術後の状況を設定し成人看護学実習前の準備に活用している。コロナ禍の際、看護協会より期間限定で借用し利用した体験はあるが、初めて触れる教員も多く、他校の活用状況の情報を得るセミナー参加、教務会議で学習会を開き活用を模索している。2年生教室のスクリーンが故障し新たに購入した。シミュレーションモデル1台が故障し、修繕が必要な状況にある。モデルの老朽化もすみ、優先度をつけた対応と予算要求を行う。助産学科では、分娩介助10例を確保するため、今年度7・8月に1つの病院を加えた。実習病院の協力を得て、7・8月と一部延長により1人5～7例分娩介助できた。70%の学生が2つの施設を行き来して学ぶ必要が生じ、施設による分娩介助の違いに戸惑う場面もあったが、異なる学生の状況を指導者と共有した支援で学びも生まれていた。学生の意見を聞き取り、11月からの実習指導に活かしていく。分娩件数が開設当初より20%減少している中、単位修得に必要な継続事例の確保も困難になっている。

働きやすい環境整備については、今年度4名の新職員を迎えた学校運営であり、業務の見通しを立てやすい情報提供を意識している。看護学科では新たに夕方に業務の進捗状況を共有し、相談や調整する機会、事務では月1回と必要時事務担当者会を行っている。議事録など可能なものは電子媒体に変更した。講師室の空調故障があり別室対応となったが、8月に講師室・会議室の空調修繕を行った。看護学科は、臨床研修や授業参観の機会を設けて教育力を高める機会、タイム管理を意識し教務会議の効率化をはかっている。また、新教育課程による授業時間の増加や実習施設の変化により教員の複数の施設で実習指導する機会の増加、多様な背景をもつ学生が多く個別の学習や生活支援および保護者への対応が増加し、業務量が増している。そのため、令和7年度に実習指導教員1名を要望した。助産学科では、分娩介助10例を確保するために実習施設を増やした結果、教員が実習施設を行き来する機会及び個々の学生の情報共有のための連絡調整が増えた。教員間の検討も困難さが増した。後期は、学外での仕事中的情報共有と効率化をはかれるよう自治体テレワークシステムに2名登録し、活用を試みる。

本校の魅力の強化について、2つの学科があるよさを活かす取り組みでは、今年度の看護祭のテーマ「笑顔満開～つながろう地域と私たち」とポスターに各学科1名が選出された。今までの各科の企画から今年度は学科合同の企画も予定している。清水病院との連携強化では、両学科として清水病院の病棟編成変更に伴い、看護部・臨床指導委員会・各病棟で実習指導体制について調整した。9月の臨床指導委員会の中間評価では、各病棟でその特徴をふまえて実習環境を整え、指導できているとの結果であった。看護学科では、臨床指導委員会で「学生のコミュニケーションの傾向から基礎看護学実習Ⅰの学習内容を考える」をテーマに意見交換を行った。患者・看護師体験をして各立場から考える、認知症がある方とのコミュニケーション場面・看護師とのコミュニケーション場面をつくるといった意見を得て学内実習を企画した。実習で実際にに関わり、看護師のコミュニケーションを参観し、看護におけるコミュニケーションについてラベルワークとして報告した。まとめに指導者が

来校し、講義や学内実習での学びと実際を結び、電子機器を活用した発表後に、コメントをいただいた。助産学科では、助産師として活動している卒業生に4月に来校してもらい、学校生活がイメージできる機会を継続している。また、昨年度導入されたモデルを使ったシミュレーション教育の充実を目指し、講師・教員・病院看護師と昨年度の課題をふまえ後期の授業内容と方法を調整した。引き続き、連携強化に努めていく。また、本校の魅力に学生の力と卒業生とのつながりがある。看護学科では、昨年度よりはじめたホームカミングデーでは、今年度卒業生の77%が市外・県外からも来校した。就職し4か月での仲間との再会や2年生に先輩として就職について話す体験はモチベーションアップにもつながり、2年生にとっても刺激となっている。在校生が4月より学生主体のInstagramをはじめ更新が続いている、オープンキャンパス、ボランティア活動として救急フェアの参加は継続している。助産学科は、オープンキャンパスに在校生と卒業生2名が参加し、学校生活や実習体験、助産師の活動の実際を語ってくれた。参加者アンケートも学生や卒業生との交流は満足度が高い。このように、学生の力、そして他校の参加率が少ない状況の中で、つながりをもてる卒業生の存在は学校の魅力といえる。創立30年を迎え、来年度は、看護の未来や学校の未来に向けてみんなで考える機会となるようシンポジウムを検討している。

報告は以上である。

2 意見交換

櫻井委員長:令和6年度中間報告を聞いて、皆さんからご質問・ご意見があれば伺いたい。

渡邊委員:努力されており中間評価結果としては4点ということで職員の頑張られた成果の評価だと受け止める。質問したい点が数点ある。中間評価3ページの働きやすい環境という点において4なのでよいのだが、新たに夕方に教員が集まって話し合うということが記載されているが、毎日行っているのか、また何時から何時まで行っているのか教えていただきたい。

和田教務長:今年度より新任の教員が増えたことで取り組みをしている。進捗状況・共有事項の確認を5分かからない程度で、提案や、困った学生や状況をタイムリーに情報共有できるようにしている。

渡邊委員:情報共有は大事な機会だと思う。働き方改革という点で懸念していたが5分と聞いてそれなら良いと思う。これが時間外の夕方となると身体的・精神的な負担が大きいと感じたため質問した。

和田教務長:時刻は16時10分に設定している。理由としてはあと1時間で業務を終わらせるというタイムマネジメントの意識を付けたい考えがあったためである。時間外申請があればその時に申請するように促している。

櫻井委員長:先ほどパワーポイントで、病院の体制が変更しており、臨地実習施設との共同という点で報告があった。どこの学校・病院も人員的に厳しい状況になっている。実習受け入れについても実習担当が以前よりも減っているという状況が聴かれる。今年体制を変更して、学生が今までの実習と変わらないように実習を受けられるように工夫している点を教えてほしい。

松本主幹:主となる清水病院で病棟編成が決定したのが昨年度末と急な変更であった。看護部とも連絡調整を密にし、編成の具合を学校から情報収集し調整をしてきた。その中で、各部署で特性があるため部署ごとの調整が必要であることが見えてきた。その部署に多く入る教員とその病棟の指導者と直に環境を整えていったというのが工夫した点である。また、臨床指導者委員会で関係者が集

まるときに学生の情報を共有したり、意思を一致させるような話し合いを取り入れた。部署の特性があるため編成しながらも分離していったり一緒にしていったりと試行錯誤が続いている。臨床指導者に当校の卒業生が増えてきており、学生に近い関係の中で学生理解をしながら指導してくれている状況がある。この環境によって、連絡相談をしやすく、意思疎通が図りやすくなったと感じている。

櫻井委員長：病院の在り方も変化しているのでそれに応じてタイムリーに対策をしていたことは素晴らしい。これから先も医療界が変化していく時代であり、その都度対応が必要だと感じる。卒業生が多い、これは強みといえる。「私の後輩」という意識を指導者がもっている強みを生かして学生を育てほしい。

浅沼委員：保護者の意見として、学校の魅力を挙げていくことがとても大事である。教員の評価がほぼ4点ということで、意識を高めて学生に教育をしていただいて大変感謝している。充実した学生生活を送れているだろうと感じる。自分も市の職員なので財政が厳しいのは承知しているが、例えばシミュレーター平成17年のものを修繕要求というよりも、政策要求で更新が妥当なのではないか。看護師が減っている状態の中で、看護師を目指す学生が減ってくる状況になったときに、現時点では倍率があり、このままでも来てくれるだろうと胡坐をかいていられない。学校の魅力を挙げていかないと学生の確保ができない。財政的に難しいことは重々承知しているが、それを見越したうえでの予算要求をしていって欲しい。ホームカミングデーの実施は卒業生にとっても入職して4か月経つとちょうど息を止めて働いていた時期が終わり、同級生と会える機会は素晴らしい。最後のスライドで30周年ということで920名の方が看護師として卒業されている。学校の魅力を感じる上で、30年前に卒業したということは920名全員現役の年齢だと思われる。例えば看護師としての離職率や、やめた理由、続けている理由、どのような進路に進んでいるのか、大変な事務かもしれないが、他校と比較してどうか。OB・OGの力を借りて自己評価していくことも検討していただければ良い指標にはなると思った。自分たちの学校のOB・OGの進路を見聞きすることでわかることもあると思ったので、今後の看護師の職業の未来につながっていくのではないかなと思う。

志田事務長：学校の魅力向上という中で、予算を確保して学校の施設を整えるという指摘については、市の財政が非常に厳しく予算査定の時期でもあり、事務も四苦八苦している。その中で今年度についてはハイブレッッドシミュレーターをようやく購入することが年度当初早々にできた。教員・学生に活用してもらっている。また、施設の関係で創立30周年を迎え施設の老朽化が進んでいる。特に空調については令和5年度から3か年計画で管理棟・講義棟の全ての部屋の空調を取り換え予定である。今年度については8月をもって修繕が終了し、来年度に残り3割程度の空調改修に向け予算要求している。修繕の関係では、講義棟の洋式トイレを一カ所であるが今年度改修した。学生は洋式トイレを望むので計画的に行いたい。今年度修繕した点では図書室の照明の一部をLED化したり煤煙の設備を修理したりもしている。

今井看護教師：ホームカミングデーを昨年度の3年生の担任が中心となって卒業生に声をかけて企画した。職員からカンパを募りお菓子やジュースなどを飲みながら楽しい時間が過ごせるようにと周知した結果、多くの卒業生が来校した。卒業生からのアンケートでは、「ちょうど煮詰まっていた頃、これでいいのかなと思っていた頃に、仲間と会えてみんな同じように悩んでいると知り、この後頑張っていける糧になった」というアンケートが多くあり、実施時期もよかったと考えている。卒業生の姿を現

3年生からは、「おかえりなさいと迎えてもらえる、来年は私たちだ」という言葉も聞かれた。このように、清水看護専門学校の歴史になるとよいと思っている。

渡邊委員:①1Pの教育理念・目標 3 番「社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構造を抱いているか」の評価がほぼ適切な3点の評価になっている。静岡市のニーズはわからないが、去年も評価が3であったと思う。静岡市のニーズがあるとしたらなかなか評価 4 にはならない。どのようなことをもって4に上げるのか教えていただきたい。②14Pの国際交流の「学習成果が国内外で評価される取り組みを行っているか」は評価4になっているが、去年は評価 3 になっていたと思う。何か取り組みを行っているのか。③23P助産学分娩件数10例がとれないとありどこの学校でも苦勞している。ここでは、県立総合病院、清水病院と調整を図っていることだが、病院の中でも少子化が進み分娩回数が取れないという状況の中で、地域のクリニックや助産所などと連携しながら新たな場所づくりをして分娩回数を確保していくことが必要だと思う。

櫻井委員長:助産学科についてはどうか。

池村教務長:静岡市のニーズとしては、少子化で子どもが減少する中で、助産師の役割として多様な場での子育てへの関わりが高まっていると考えている。カリキュラムの中では分娩に特化するというわけではなく、地域の中でどのように助産師が役割を果たしていくのかを考えている。カリキュラムの中でも強化しており、その成果についてはこれから評価していく段階にある。分娩介助について、新たなクリニックにいくつか相談させてもらったが、開業医では学生を指導するスタッフがいなく受け入れが難しい状況にあった。昨年度、静岡県の産婦人科医会会長にも相談したが、やはり難しい状況にあった。助産所については以前と比べ分娩件数が少ない状況である。分娩介助の実習期間中(7・8・11・12 月)に、必ずしも分娩の方がいるわけではない。分娩介助をさせていただくことは学校側としても検討していたが、実際に助産所でコールをもらっての実習となってくると、本来の主たる実習病院でも分娩介助だけではなく学生は産褥と新生児のアセスメントとケアプランの実施評価を行っている。妊娠中期から産後一か月まで継続して受け持たせてもらう方の産褥の保健指導もあり、実習施設と助産所のかなり細かい微調整が発生するのではと懸念している。助産所の分娩介助については新たに開業している助産所もあるため検討していく。

櫻井委員長:大変だとは思いますが頑張してほしい。開業医も指導できるスタッフがいなかったら先生も一緒に行動したり、夜間でもコールで学生を呼ぶ学校もある。それがよいかどうかはわからないが、教員がお任せしますということではなくてお互いに協力し合ってできればいいと感じる。

池村教務長:現状でも病院で分娩介助において、夜間のコール時に看護教師が対応して指導している。

渡邊委員:大変だとは思いますが頑張ってください。

櫻井委員長:国際交流についてはどうか。

玉木看護教師:今年度国際情報論を担当している。今年度からの取り組みでSDGsの目標や具体策を考える授業を構築した。それにあたって県立大学の講師などに成果をアピールできる場、例えばコンクールのようなものに応募ができないか検討した。自分自身でも探したが対応可能な時期や内容が異なり、評価の後に応募ができない状況がわかった。現在講師の協力を得ながら新たに探している最中である。公式な場に参加できない場合は、学生に許可を取り、ホームページで掲載したい。

櫻井委員長:機会が得られるよう継続して取り組んで欲しい。最後に学生募集の評価がすべて 4 には

なっているが、これから学生募集が始まってくる。昨年もかなり大変な思いをして定員を確保したという状況があったと思う。今年もオープンキャンパスもやられてこれ以上何をすればいいのかという学校も多い。そのような中で、看護協会が看護協会のコマーシャルをやろうと企画している。医師会は認知されているが一般の方に看護協会は認知されていない状況がある。看護師についてのコマーシャルは派遣・登録はある。専門学校がやっていいのかわからないが、大学は行っている。自分の施設をアピールするには良い方法といえるが、それには予算確保が必要であり厳しいと思う。最終では学生募集の結果から評価していけるとよい。

佐野副校長：水谷委員より事前にいただいた意見を紹介する。

I 教育理念・目標 助産学科について、ディプロマポリシーと講義を関連付けるため、学生・講師双方に丁寧な働きかけを行っているのがわかる。アンケート結果からも成果が出ており、今後も継続していただけるとよい。

III 教育活動 両学科について、シミュレーション学習ではシナリオの設定や、教材・模擬患者などのコーディネートなどに時間がかかり、苦勞が多いと思うが、実践能力評価や、知識や技術を深く学ぶためにはとても有効な学習方法である。もう一体の修理予算を確保して活用して欲しい。また、効果的なシミュレーション学習にするためには、指導者のファシリテート力やデブリーフィング力などが重要になると思うので、さらに磨きをかけていくとよい。

IV 卒業・就業・進学 看護学科について、新採用者に自己の目指すキャリアを描いているかを問うと、ほとんどが「考えていない」という返答であった。学生の時にキャリアデザインを描いても、いざ臨床に出ると現実とのギャップで自信がもてなくなるのかもしれない。ただ、キャリアビジョンをもっていることが、目標達成に向けて努力することや、多少の困難は乗り越える力となるので、キャリアデザインを描いて卒業できるよう引き続き支援をお願いしたい。

X 社会貢献・地位貢献について、項目 2 学生の活動を報告する機会をもっているについては、どのように行っているか。報告することにより、活動を振り返り自己成長を実感する機会になり、認められ、評価させることでモチベーションアップにも繋げられると思う。また、学生や教員がボランティア等地域とのつながりを強化することで、学校の認知度や信頼性を高めることができ、学生の集客にも繋がっていくので、引き続き積極的に行って欲しい。

地域貢献について、どのように学生に活動を報告する機会を設けているのか質問があった。それに対して学校側から説明を行いたい。

亀山看護教師：今年は学生にボランティアを行うことのメリットを春に情報提供した。内容は主に8つあり、特徴的なものでは、就職活動や進学の際のアピールのポイントになる、社会貢献を実感できる場となる、幅広い世代とつながる場になるである。これらを情報提供した上でボランティアを募集した。直近では9月9日救急フェアに1・2月年生合計6名が参加した。内容としては簡易健康測定として血圧やSPO₂の測定を来場者に説明をしながら行った。看護学校のブースに170名来場された。質問にあった学生の活動をどのように報告するかという点について回答する。ボランティア活動後に振り返りシートに自己の学び、今後ボランティアを行う後輩に向けたメッセージを書面に記入してもらった。それは学生のボランティア体験を整理する機会につながったと考えている。その後、お昼休み等を使用し、クラスあるいは2年生が1年生の教室に出向き、リアルな声を届ける機会として報告

会を行った。当該学生は手ごたえや成功体験を感じ、かつ 1 年生は共感を得て次回参加してみようという考えに傾いたと思っている。当日は、高齢者や子ども連れが多かったが、特に高齢者からは看護学生というところで「頑張ってるね」と励ましの言葉を多く受けた。学校では味わえない、ボランティア参加ならではの体験であったと感じる。地域に向け、学校の信頼性アップやアピールにもなるため続けていきたい。

櫻井委員長：社会貢献は必要であり続けていって欲しい。以上で中間評価の審議を終了する。

志田事務長：皆様からの貴重なご意見は令和6年度後半学校運営に活かしていく。第2回目の会議は令和 7 年 3 月13日教育課程編成会議の後の15時30分から予定をしている。よろしくお願いいたします。以上をもって会議を終了とする。